【演題応募要項】

Ⅰ.作成形式と留意点（①研究、②実践報告、共通）

1.本学会は「①研究」と「②実践報告」の２種類があります。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　研究方法が明確でない場合は「②実践報告」となります。

※　②実践報告の場合は作成形式が異なりますので、（4ページの「Ⅱ．必要項目」をご確認ください。

　各々の様式をホームページからダウンロードすることができます。

2.用紙はA４判を横書きで１枚にまとめる（引用文献、図表等を含む）

3.「演題名」「キーワード」「発表者名（頭に〇印）・共同研究者名」「所属施設名」を記載する。上4行を使用

し、１段組とする。

4.本文は、5行目から2段組にし、2,000字程度の抄録になるように設定する。10ポイントのMS明朝にする。

5.本文中の大項目から小項目の番号は、Ⅰ、1、1）、（1）の順に振る。数字は半角とする。

6.余白は、上部は18mm以上、下部は20mm以上、左右は15mm以上の余白を必ずとる。

7.図表を挿入する場合、レイアウトは自由だが、論述の根拠となるデータを厳選し、図表の文字、数字は判読

可能なものを挿入する。

8.写真、図表は、白黒の写真製版できちんと見えるものであるか、事前にコピーをとるなどして確認する。

2．「②実践報告」の必要項目

1)演題名：演題名は報告の全体像を網羅した、簡潔明瞭な表現を工夫して記載する。必要時にはサブテーマを

つける。

2)キーワード：実践（報告）内容を表すキーワードを3～5語記載する。

3)目的または実践の背景：実践の目的・背景を記載する。

4)実践内容（実践経過）

(1)対象：対象は何か？－患者、看護者、看護学生、看護記録、資料など

対象者数は？－何人、何件など　対象選択基準を述べる。

(2)期間：取り組んだ期間を記載する。データ収集を行った場合は、データ収集期間も併せて記載する。

(3)実践経過： 実践の具体的内容、事例の場合は事例の概要、業務改善の方法などを記載する。

5)倫理的配慮：研究方法が明確でない場合は「②実践報告」になります。その際、倫理的配慮として「倫理審査委員会で承認を得ている」等を記載してください。実践報告では倫理審査を受けていない場合は、組織的な了承を得ていること、対象者への説明と同意・対象者への不利益や負担への配慮について等、内容を抄録に必ず記載してください。記載がない場合、不採用になりますのでご注意ください。

＊記載例）A病院の看護部の了解を得た。対象者に、プライバシーの保護、発表の予定などについて文書で

説明し、同意書に署名を得た。

※利益相反について、倫理的配慮の項目に含めて記載してください。

＊記載例）

【利益相反がない場合】本演題発表に関連して開示すべき利益相反関係にある企業等はない。

【利益相反がある場合】本演題発表に関連して、過去1年間に△△社から研究者所属の看護部への委託研究費、奨学寄附金などの研究費、および個人的な講演謝礼を受けている。

6)実践結果：得られた結果や成果を具体的に述べる。

7)考察：得られた結果が意味することや成果が得られた理由などを客観的に述べる。

8)結論（またはまとめ）：実践結果から得られた最終的な成果（まとめ）を述べる。

9)引用文献：抄録内に引用した文献を記載する。なお、参考とした文献は記載しない。

(1)引用文献は、引用順に番号をつけ、本文引用箇所の肩に、1)  2)　3）などで示し、本文の最後に一括して番号順

に記載する。文献には　1)、2)、3）と番号をつけて羅列する。

(2)ページは、引用した部分を数字で表す。

(3)学術雑誌と書籍は、記載方法が異なる。以下を参照し、コロン（：）、コンマ（，）ピリオド（．）の

使い方にも注意する。

・雑誌の場合　　著者名：表題名，雑誌名，巻(号)，ページ，発行年（西暦年次）．

　　　　　　　　例）宮城花子：看護研究の書き方について,宮城看護,10（11）,ｐ.10－20, 2021．

・単行本の場合　編著者名：書名（版），ページ，出版社，発行年（西歴年次）．

　　　　　　　　例）宮城太郎：看護実践研究の手引き（5）, ｐ.30－40,宮城出版, 2022.

・訳本の場合　　原著者名，（訳者名）：書名（版），ページ，出版社，発行年

　　　　　　　　例）Alice　Miyagi,(宮城花子) :Nursing Miyagi(5), ｐ.50－60,八幡出版,2023.

・電子文献の場合　著者名：表題名，雑誌名，巻(号)，ページ，発行年（西暦年次）,アクセス年月日,URL

　発行機関名(調査/発行年次),表題,アクセス年月日,URL

　　　　　　　　例）文部科学省,厚生労働省,経済産業省（2024）,人を対象とする医学系研究に関する倫理指針令和5年改正について,2024年2月10日閲覧,https://www.mhlw.go.jp/content/001087960.pdf

　　　　　　　　※公益機関から提供される情報（統計、法令等）、電子ジャーナルのみを対象とする。

　※参考文献は記載しない

②「実践報告」抄録原稿形式

上部余白18mm以上

左部余白15mm以上

|  |  |
| --- | --- |
| 演題名（14ポイント）センタリング  1行あける  キーワード（9ポイント）　※なしでもよい  ○発表者名、共同研究者名（9ポイント、発表者名には○印をつける）  所属施設名（9ポイント） | |
| Ⅰ．目的（または実践の背景）  Ⅱ．実践内容  1.対象  2.期間  3.実践経過  Ⅲ．倫理的配慮  ＊記載例）  A病院の看護部の了解を得た。対象者に、プライバシーの保護、発表の予定などについて文書で説明し、同意書に署名を得た。  なお本演題発表に関連して開示すべき利益相反関係にある企業等はない。  Ⅳ．実践結果 | 右部余白15mm以上  Ⅴ．考察  Ⅵ．結論（またはまとめ）  引用文献  ※引用文献は記載するが、参考文献は記載しない |

下部余白20mm以上